

公益社団法人 埼玉県看護協会



さいたま

Nursing

2021.11.24 NO. 129



撮影者：丹地敏明（提供：国営武蔵丘陵森林公園）

会員数 **25,304**名（2021.8.31 現在）

保 健 師	414名
助 産 師	951名
看 護 師	23,323名
准 看 護 師	616名



埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>

特集

ともに、つくる、「看護」

保健師の現場より「鴻巣保健所」

P4~5

- ❀ ごあいさつ P2
- ❀ 第15回 医療安全大会 P3
- ❀ 認定看護管理者教育課程 サードレベルが閉講しました ... P3
- ❀ 助産師の活動 助産師職能委員会研修 P6
- ❀ 訪問看護師の工夫 “今こそ見直す感染対策” P7
- ❀ お知らせ P8

ごあいさつ

公益社団法人埼玉県看護協会 常務理事 各務 初恵



平素より会員の皆さまには協会活動について、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。
2020年2月以降COVID-19の感染拡大に伴い、「普通の生活」への制限が始まりました。マスク着用が必然となり、密を避ける行動へと変化を余儀なくされ、ストレス発散がままならない日々となりました。しかし、感染状況が落ち着き始めた今年10月からは、徐々に集合研修を開催し、皆さまのご期待に添えるよう努めております。

協会は感染拡大を災害と捉えた対応に努めています。感染拡大が深刻化する中、防護具(PPE)の不足が各施設から寄せられ、支援の準備に日本看護協会とともに取り掛かりました。サージカルマスク・ガウン・フェイスシールドの手配をはじめとし、現場でも手に入りにくいN95マスク・手袋(ニトリル・プラスチック)・アルコール消毒剤の手配を行いました。十分に準備することができず、希望数を支援できなかった施設の方々には、申し訳ありませんでした。

「クラスターを発生させない」を基本とし、感染症予防対策相談を開設しております。感染者を受け入れている病院・受け入れ準備を進めている病院・介護施設など様々な施設からの相談に対応しています。感染を持ち込まない・感染を広げないための正しい知識の啓蒙に努めています。感染拡大が落ち着いている今、ぜひ施設の感染対策の検証にお役立てください。

長らく、埼玉県は大きな災害(自然災害)を経験していませんでした。県内の災害支援ナースは東日本大震災、熊本地震、関東・東北豪雨と他県への支援が続いていました。

しかし、2019年に台風19号により入間川が氾濫し大きな爪痕を残しました。以来、県内の災害支援ナース派遣に向けた準備を強化しております。

災害支援ナースの派遣依頼は、埼玉県の災害対策本部から協会に來ます。協会は県内の各施設が登録するEMIS(広域災害救急医療情報システム)、報道などから被災状況を把握し、災害支援ナースの派遣依頼に備えます。折しも、10月7日の夜半、埼玉県は震度5強の地震にみまわれました。皆さまはどのような対応をされたでしょうか。発災時の対応について、今一度ご確認いただけたらと思います。

会員の皆さまには、未だ収束が見えない感染対策、さらに災害に対する日頃からの備えを心がけていただき、「普通の生活」を送れるよう前向きに取り組んでいきましょう。

第15回 医療安全大会

開催日 11月6日(土) 13:00~16:00 形式 オンライン(Zoom) 開催 参加 366名

第15回、埼玉医療安全大会に多くのご参加をいただきありがとうございます。

COVID-19感染拡大防止のため昨年は中止となりましたが、今年はオンライン形式という新しい試みでの開催となりました。

今年のテーマは「コロナ禍における医療安全」でした。第一部では、3つの施設の方からコロナ禍における活動報告をしていただきました。コロナ禍で病院や訪問看護STがどのような影響を受け、どう対応したのかをお伝えできたと思います。

第二部は、坂本 すが氏より「チーム医療のかなめ 今 看護職にエールを!」のタイトルでご講演をいただきました。終始明るく、力強い言葉と笑顔をみせていただきパワーを充填することができました。

働き方改革、新型コロナウイルス感染拡大など、環境の変化によって先が見えない時代です。その中でも、将来的に組織がどうありたいか、どうしていくのか、ビジョンを明確にすること、どのような変化が起きたときにも、柔軟に対応できるように「Agilityの高い組織をつくろう」というエールを胸に看護管理者としてもリーダーシップを発揮していきたいと思います。

〈医療安全推進委員 吉村久美子〉

誤接続防止コネクタの導入について

経腸栄養分野での変更 ISO 80369-3

■新規格の対象となる製品の例

- 経鼻栄養用カテーテル
- 経腸栄養投与セット
- 経腸栄養用延長チューブ
- 経腸栄養用活栓
- 胃瘻用カテーテル (PEGチューブ・ボタン)
- 注入器 (栄養用)

胃瘻の施設での選択は
いびきですか?



- 注1) これらを含むキット・セット製品も新規格の対象となります
注2) バルーンインフレーションルーメンのコネクタや胃瘻用ボタンのコネクタ部及びこれに接続するチューブのコネクタは対象外

変更箇所 (イメージ)

患者留置側: カテーテル

経鼻栄養カテーテル

胃瘻カテーテル (ボタン型)

胃瘻カテーテル (チューブ型)

投与側: 各投与セット

シリンジ

経腸栄養用
エクステンションチューブ

患者さんや利用者の方に安心・安全な経腸栄養の提供を!

経腸栄養分野ISO規格変更

参加者のことば 益子病院 医療安全管理者 師長 福島高代

坂本先生の講演より「患者にとって最善の方法を、共に考える」ことの大切さを再認識しました。患者をあらゆる面からサポートできるようお互いの専門性を生かして多職種間で意見を交換し、それぞれの見方の差異を統合する。医療安全においてもチーム医療は必要不可欠であることを念頭にマネジメントしていきたいです。

今回の医療安全大会に参加した経験より、エビデンスを示し共通理解を形成することで安全管理・再発防止に役立てていこうと考えました。教養を身に付け、考える力を育むことで組織の質向上に努めてまいります。

認定看護管理者教育課程

サードレベルが閉講しました

COVID-19発生動向が落ち着きを見せ、埼玉県看護協会では集合しての研修が再開され始めました。

10月22日には、昨年度は開催がなかった認定看護管理者教育課程サードレベルの閉講式が執り行われました。19名の受講者の皆さまが、全42日間にわたり保健医療福祉の政策動向を理解し、経営管理の視点に立ってマネジメントを展開するという到達目標に向かって学ばれました。閉講式の前日には、全員が集合し「経営企画書」の発表が行われ、担当アドバイザーの先生から講評をいただきました。

オンラインには、どんな場所からでも学びを可能にする利点があります。一方で、集合し、顔を合わせ、互いの健闘を讃え、励ましあうことは今後の飛躍へより一層の後押しとなったように感じました。

(認定看護管理者教育課程 専任教員)



保健師の現場より

鴻巣保健所

今年7月から始まったCOVID-19の感染拡大の第5波は、多くの感染者を出し医療現場は過酷を極めていました。県内の各保健所においても、感染の急拡大により膨大な業務が発生し、保健師の方々は文字通り昼夜の別なく対応に当たられていました。過酷な日々をどのように乗り越えられたのか、これから先に対してどのような展望を持って取り組まれているのかについてお話を伺いました。

(聞き手 常務理事 黒田京子)

保健予防推進担当の皆さま



主任
おおさわ しずか
大澤 康氏

担当部長
こいずみ ゆり
小泉 優理氏

担当課長
かわかつ みえこ
川勝 三恵子氏



管轄区域

鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町

Q1 COVID-19第5波の際の保健所の業務についてお聞かせください

小泉 7月最後の週が明けた26日の月曜日、一日の感染者数がそれまでの20件前後から65件に跳ね上がりました。そこからは日に日に感染者数が増大していき、調査結果のデータを入力する時間も惜しい状態になりました。優先すべきは、重症者や重症化リスクの高い人を見落とさず、医療機関につなげることでした。鴻巣保健所では、所長・副所長の後押しもいただいて独自のトリアーシットを作成して優先度をつけることに方針を変更して対応しました。患者調査を行い、次々と入る自宅療養者からの症状悪化の相談を受け、受診や入院調整を繰り返し行ってきました。



また、医師からの発生届が22時を過ぎて届くこともあり、少しでも効率よく、届出のあった感染者の方に確実に対応するのに必死でした。

大澤 朝から夜まで、ずっと電話が鳴り続けていました。限られた人的・時間的資源の中で優先度を見極めて対応することは、昨年度の感染拡大初期の頃から意識はしていました。それでも、感染者数の急激な増加によって日に日に対応がひっ迫していきました。また、一日が終わるような時間であっても、発生届が手元に届いたら患者さんにお電話をし「詳しくは明日になってしましますが、今の具合はどうですか」と緊急対応の必要性を見極められるように努めていました。

川勝 感染者数が増えるに従い、入院の調整も困難になりました。保健所では、担当課長以上の4人の保健師が交代で夜間の緊急連絡に備えるために携帯電話を持ち帰っています。感染爆発時には、救急隊からの電話だけでも一晩に8件の着信があったこともありました。血中酸素飽和度が低下し、呼吸苦を訴える、

そんな状態でも入院先が決まらない状況にあり、呼吸状態は悪化していなくても高熱が続いている、食事が食べられない、下痢が続いているなど、脱水が疑われる方の受診や入院調整は更に厳しいものがありました。「翌朝まで様子を見てください。朝、体調を伺い、受診や入院調整をさせていただきます」と患者さんやご家族にお伝えするしかない時は、本当に辛いものがあり、患者さんの不安を思うと心が痛みました。



Q2 24時間、間断なく業務が続いていた中でどのようにストレスコントロールされたのでしょうか

小泉 鴻巣保健所は、埼玉県内で最も人口単位の保健師が少ない現状にあります。一律に時間をかけるだけでは、感染者へのフォローが行き届かないことになりかねません。また、スタッフが疲弊して倒れるようなことも絶対に避けなければならない。担当内で健康危機管理に対応するためにチームとしてどういったことを意識してやっていくのかを昨年度から「コロナ対応心得5か条」(P5上参照)として作成し、声を掛け合っていました。その効果もあり、スタッフ全員が戦線を離脱することなく、今この時期を迎えることができてほっとしています。

大澤 このままだと感染者数が増えていくのだらうという不安の中で、保健師だから、看護師だから、新人だから、応援職員だから…そんな垣根なく全員が意見を出しあい、手を差し伸べあえるという職場の土壤があったことが良かったように思います。



川勝 大変ではありましたが、心に溜めずに、その時々に関りご

コロナ対応心得⑤か条

～長期化している危機対応を上手に乗り切るために～

①「むだ」と「こだわり」を捨て効率化できることはないか考えよう。

- 幅広い職種や職位で対応できるよう、システム化、見える化の工夫をする。
- 常に省略できるところはないか考える習慣を作る。

②「自分ができること」を探しチームに貢献する意識を持とう。

- まずは住民の電話相談を受ける。相手を尊重し、誠意をもって対応することが基本。
- 指示を待つのではなく自分ができるとは何かを考え、チームに提案する。
- 仲間の業務量について偏りを感じた場合、本人やリーダーに声をかける。

③健康第一!長丁場に耐えるために「省エネ」を心がけよう。

- パフォーマンスを高めるために休息をしっかりとる。年休を積極的にとる。
- 有言実行、毎日終業時間を宣言する。早い帰宅は、笑顔が増える。

④個人の勤務時間・意見は「チームのもの」大切に使う。

- 時間や意見は、無駄なく有効に使う。時間の使い過ぎにも注意。
- 成功も失敗もオープン情報とし、チームの次の動きにつなげる。
- 小さい気づきも提案できる雰囲気を作る。提案は実践につなげる。

⑤状況は変化している。日々「PDCAサイクル」を回そう。

- 現状に満足しない。このやり方を続けていいのか?と考える。
- フェーズに応じて変更したチームミッションを全員で共有する。

〈令和2年度 鴻巣保健所 保健予防推進担当 作成〉

とや想いを口に出して発散していました。そして、それを受け止めてくれる雰囲気があったことも支えになりました。

それに、チーム内だけではなく鴻巣保健所全体での協力体制がありました。別の部署からも応援があり、週末も交代で出勤してくれました。

Q3 その他の関係各所との良い関係の確立や連携はあったのでしょうか

小泉 これまで管内市町への応援要請はしていなかったのですが、感染者数の増加が止まらない中、市の担当者から「何か手伝えることはないか」との声をかけていただき、8月26日から新規患者の調査を専門に手伝ってくれる保健師を派遣していただきました。本当に助かりました。

川勝 電話が鳴り続け悲惨ともいえる状況にあった夜間対応の際も、電話の向こうで何とか病院を探そうとしてくれる救急隊員の方の姿勢や言葉に救われたこともあります。

大澤 管内の医療機関との関係にも支えられました。地域内で何とか診察してもらえる医療機関が見つかったとホッとしました。患者さんにとって、直接、診療してもらえることは大きな安心につながったと思います。

小泉 第5波の時は、様々な局面がひっ迫していました。それだけに心無い言葉を受けることもありましたが、一方で地域の医師から「大変だよな。でも一緒に地域のために頑張ろうな」というお声がけをいただいたことも励みになりました。

また、管内の中核となる病院の感染管理の看護師さんとは、コロナ以前から患者搬送の合同訓練計画などを練っており関係ができていました。そのこともあり、お互いに無理を承知のお願いや相談もでき、病院内での医師や病棟看護師さんの調整に何度も助けられました。

管内の訪問看護ステーションからも「できることはないか」と声をかけていただきました。介護の必要な陽性者の在宅サービスが一時中断される中、感染期間中も訪問を続けてくれるなどの対応をしてくれたのは「看護」の人たちでした。

これらの状況から、目には見えないけれど、地域でチームができてつつある一そうに感じていました。

Q4 今後の課題についてお聞かせください

小泉 往診の順番を決めて訪問診療を行っている、また、夜間の相談窓口には医師と看護師が対応している体制が整っているような地域もあります。この地域においても多職種が連携し、自宅療養者の方々に対する支援の仕組みづくりをしていかなければならないと感じています。感染者数が減った今だからこそ次への布石を打たなければなりません。

川勝 医療機関とは、お互いがそれぞれの立場で大変さは違う中でも、気遣いあいながら最善の策を打つことができるような体制を構築していきたいです。

小泉 COVID-19を経験したことで、今後よりブラッシュアップした連携がとれるのではないかと思います。



職場の風景

鴻巣保健所 所長
遠藤 浩正 氏のコメント

昨年来、COVID-19への対応を通し、改めて保健師の「存在意義」を認識しています。心身ともに限界を超えて努めていただいた、すべての保健師に心からの敬意と感謝を表します。これから地域を「みて」「つないで」「動かす」という保健師の本義をふまえた活動が展開されることを期待しています。

緊急開催

助産師の活動 助産師職能委員会研修

コロナ禍における周産期医療の現状と課題 —今取り組むべきこと—

COVID-19第5波の医療現場ひっ迫に伴い千葉県で新生児死亡という事案がおきました。これを受け、助産師職能委員会はオンラインによる緊急研修会を開催しました。企画から実施まで18日と短い準備期間であったにもかかわらず、病院・地域・行政などの多職種にわたり多くの皆さまに参加いただきました。

開催日時：9月18日(土) 13:00~16:00
参加人数：81人 於) 埼玉県看護協会研修センター 八木ホール

プログラム

1. 「感染最新情報と感染管理の基本」
感染管理認定看護師 朝倉智美氏
2. 「周産期医療の現状と課題」
助産師職能委員長 谷島春江氏(埼玉医科大学総合医療センター)
同 副委員長 千葉富士子氏(戸田中央産院)
3. 「地域支援の現状について」
一般社団法人埼玉県助産師会 会長 牧岡晴美氏



活発に意見が交わされました

VOICE 01 陽性である妊産婦の入院調整のシステムとして「産科リエゾンシステム(資料参照)」が構築されたことを共有した

VOICE 02 第5波において多くみられた、陽性である妊婦へのフォローが手薄であるという問題提起があった

VOICE 03 母体が陽性であれば、産後も母子分離期間が長くなり十分な育児支援ができない。デイケア型の産後ケア(スタッフはフルPPE)、電話訪問、寄り添い支援の充実、支援の地域差等、様々な課題や方策が示された



資料：「妊産婦に対する新型コロナウイルス感染症対応の図(埼玉県資料)」

参加者のことば

限られた設備の条件で感染対策を工夫する施設の話が多く、努力と苦勞が感じられました。出産は、妊産婦と新生児二人の命を預かる大きなイベントです。通常のお産であっても、各家庭の環境や健康状態など、気を配ることは多い中、さらに感染防御にも配慮する姿に、専門職として「自分たちの患者さんを自分たちで守るのだ」という強い思いに触れることができる研修でした。

〈広報委員 原 美保〉



担当常務理事 佐藤啓子より

ご参加いただいた皆さまにお礼申し上げます。当日は、日本看護協会会長 福井トシ子氏、常任理事 井本寛子氏にも参加いただきました。福井会長からは「コロナ対応は多くの看護職が関わっている。しっかりと情報を共有し取りこぼしのないようにしてほしい」とのお話をいただきました。制度は拡充されていますが、それを活用できるようにするためには、病院、地域の連携が重要であることが共有された研修となりました。

本協会のアンケート調査「新型コロナウイルス感染症対応実態調査（2020年12月）」に回答くださった訪問看護ステーション149件のうち、62%の訪問看護ステーションにおいて常勤職員は7.5人未満でした。最小の人数で運営しているステーションも多く、職員が感染することは元より、濃厚接触者となって就業制限がかかることも大変深刻な問題となります。そこで、感染が落ち着いている今、この時にこそ見直したい感染対策について、ナレッジナース代表・感染管理認定看護師の朝倉智美先生に伺いました。

訪問時のPPEについて

Q1 レインパンツなどを使用して足元までカバーした方がいいですか

A 利用者がベッドを使っているのであればガウンで問題ありません。床が汚染されていて室内履きがない場合は、自宅に上がる際にシューズカバーを着用されてもよいと思います。シューズカバーを使用する場合は、脱衣時の汚染を防ぐため練習されるとよいでしょう。

Q2 COVID-19流行期のマスクはN95を使った方がいいですか

A サージカルマスクで問題ありません。吸引など、飛沫の可能性がある際にはN95を使うなど、状況に合わせて選択されるとよいでしょう。

廃棄物の処理について

Q3 COVID-19陽性者を訪問した際の廃棄物処理方法はどのようにしたらいいですか？

A 環境省より出ている「廃棄物処理業における新型コロナウイルス対策ガイドライン（令和3年9月15日改訂）」を参照いただき、捨てる場所（ご家庭・事業所）により対処してください。

CO2モニターについて

Q4 CO2モニターの活用方法を教えてください

A CO2モニターは、感染リスクを測るものではなく、換気状況の目安を知るために使用します。部屋の吹き溜まりや、座る場所などで計測して数値が高くなるようでしたら換気してください。訪問先のお家で計測することで、換気の頻度などをアドバイスするためにも使えるのではないのでしょうか。

朝倉先生より



自宅療養はもちろんですが、陽性者が療養した介護・福祉施設でも訪問看護の支援が心強かったという声を聞き、在宅や施設における訪問看護の役割の大きさを実感しました。

生活の場で安心して看護を提供するためには、訪問時のシミュレーションや感染対策マニュアルの見直しなど、陽性者対応に備えた準備をしておくことが大切です。より実践的な相談には感染管理認定看護師の現地指導がお勧めです。埼玉県看護協会の認定看護師派遣事業を是非ご活用ください。

濃厚接触者の定義

Q5 濃厚接触者の定義を周知しているのですが、浸透しません

A 定義として伝えるのではなく「濃厚接触者にならないために具体的にどうすればよいのか」を伝えるとよいかもしれません。目と鼻と口をしっかりと覆っていれば、感染リスクを下げることができます。

感染予防について

Q6 日常的な家庭内感染の予防について、どんなことをスタッフに伝えたらいいですか

A スタッフ間で家庭ではどんな場面に感染リスクがあるのか「危険予知トレーニング」をしてみると良いのではないのでしょうか。

〈流行期にできる家庭内感染予防の一例〉

- 食事は、できるだけ直接飛沫が避けられる場所に座る、少人数や交代で食事をする



- 食事中は換気をする（窓を少し開けて、換気扇を回すと換気が速い）

- 入浴後は、鏡や壁をお湯で流す。次の人が入るまで換気時間をとる

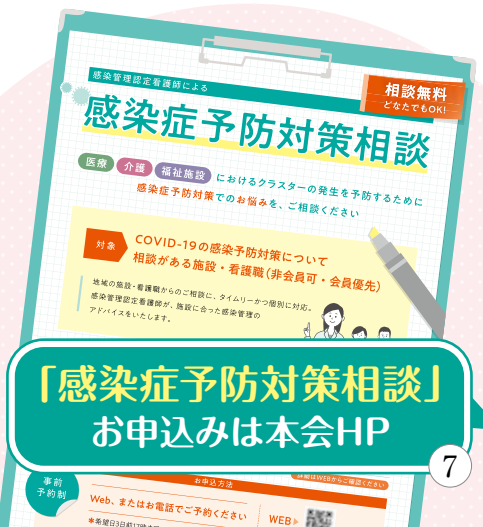


- 「おうちでマスク」は、布マスクであっても自分から飛ぶ飛沫をある程度防ぐことができる

インフルエンザについて

Q7 インフルエンザの流行期には、COVID-19との判別をどのようにつけたらよいのでしょうか

A 基本的な感染予防策は、インフルエンザ、COVID-19どちらも同じです。訪問看護師は、様々な場所で多様な方と交わります。訪問時には、感染の有無に関わらず、体液（汗は除外）・血液・創傷（健全な皮膚は除外）などの感染性があるものを対象として適切な対策をすることが大切です。日頃から「標準予防策」を徹底することで、感染発生時の不安も少なくなるのではないのでしょうか。



「感染症予防対策相談」
お申込みは本会HP

選挙管理委員会 推薦委員会からのお知らせ

令和4年度改選役員、推薦委員及び 令和5年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

選挙管理委員会からのお知らせ

令和4年6月18日(土)に開催される通常総会(会場:埼玉県看護協会研修センター)で、令和4年度改選役員、推薦委員及び令和5年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施します。立候補される方は、正会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出用紙を下記に郵送してください。

■改選役員数と役職

1. 改選役員
 - 副会長候補者……………1名
 - 専務理事候補者……………1名
 - 常務理事候補者……………2名以内
 - 職能理事候補者……………1名(保健師)
 - 地区理事候補者……………2名以内
 - 准看護師理事候補者……………1名
 - 監事候補者……………各1名(保健師・助産師)
2. 推薦委員……………9名
3. 令和5年度日本看護協会代議員……………25名
予備代議員……………25名

※3.の人数は想定

■立候補基準

1. 役員(任期2年)
 - (1) 埼玉県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
 - (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会の役員又は委員としての活動経験を持ち、協会組織を理解している人
 - (3) 埼玉県看護協会が定めた会議に出席できる人
2. 推薦委員(任期1年)
 - (1) 埼玉県看護協会の目的に沿って組織を強化・発展させることができる人
 - (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
 - (3) 埼玉県看護協会の実情をよく知り、定められた会議に出席し積極的に任務を遂行できる人

3. 代議員・予備代議員(任期1年)

- (1) 日本看護協会の理念・目的を理解し、1年間代議員としての責務を果たせる人
- (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- (3) 日本看護協会総会に出席できる人

■受付期間

立候補届出用紙は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】埼玉県看護協会: TEL048-624-3300

【送付先】〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
選挙管理委員長宛 **親展**

【提出期限】令和4年2月18日(金) 必着

推薦委員会からのお知らせ

令和4年度改選役員、推薦委員及び令和5年度日本看護協会代議員、予備代議員の候補者を推薦される場合は、正会員5人以上の推薦が必要です。推薦していただいた方々につきましては、推薦委員会で協議の上、候補者として推薦を確定させていただきます。

■改選役員数と役職

選挙管理委員会からのお知らせと同じ

■推薦基準

選挙管理委員会からのお知らせの立候補基準と同じ

■受付期間

推薦書は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】埼玉県看護協会: TEL048-624-3300

【送付先】〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
推薦委員長宛 **親展**

【提出期限】令和4年1月28日(金) 必着

第29回 埼玉看護研究学会

開催日時: 12月4日(土) 9:15~16:00 形式: オンライン
《テーマ》「今こそ看護 一看護の力で未来共創一」

3.11メモリアル企画

開催日時: 令和4年3月11日(金) 13:00~16:30 形式: オンラインに変更
※詳細は「マナブル」をご確認ください

編集後記

広報委員会

緊急事態宣言解除後、少しずつ日常生活を取り戻していることと思いますが、COVID-19との共存は続きます。第6波に備える一助となることを願い、長きにわたり最前線で休むことなく対応続けていた保健師・助産師・訪問看護師の各現場から第5派までを振り返り貴重なお話をいただきました。COVID-19との対峙も2年の時が経とうとしています。多くのことが制限されている中で、前号のアンケート「身の回りでおきた良いこと」に多くの回答がありました。友人や同僚からの妊娠の報告や、患者さんやご家族からの言葉がけに励まされたなど、日々の出来事に感謝し、幸せを感じとることができる皆さんが仲間であることに改めて勇気づけられました。末筆になりますが、本号編集に際しご協力をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

広報誌「さいたま」129号はいかがでしたか? アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります。奮ってご参加ください。

- ◆応募締切: 12/31(金) まで
- ◆抽選で30名様にクオカードをプレゼント

▼アンケート内容

- ① 興味を引かれた記事はありましたか。
- ② 緊急事態宣言が解除されたことにより実現した「あなたの楽しかったこと・嬉しかったこと」をお聞かせください。
- ③ 本号と一緒に会員様限定カレンダー・クリアファイルをお送りしております。ご感想をお聞かせください。
- ④ 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください。
- ⑤ プレゼントに応募される方は、お名前、郵便番号、住所をご入力ください。



回答はこちら

QUOカード
500円分
プレゼント!!